

新カリに向けた取り組みについて

教科	今年度取り組む内容	取り組んだ後の反省・来年度へ向けた変更点等	来年度に向けた変更点・来年度取り組みたい内容
国語	<p>①「知識及び技能」 語句の意味調べ(主体的)→授業中なぜその意味を選んだのか説明させる(思考力・判断力・表現力)→正しい意味の選択を学ぶ(主体的に活用させる技術の習熟・熟達)</p> <p>②「思考力・判断力・表現力」 小説・評論の初読後感想→授業後問題点の発見・提示・本文中の根拠を挙げて自分の考えを書く。説明する→発表・話し合い→まとめ</p> <p>③「学びに向かう力・人間性等」 ②で挙げた発表・話し合い・まとめの後にさらに発展・深化させるための発問を用意する。時代を超えてその価値観が当てはまるのか、どう変わっていくのか考える→発表・話し合い→まとめ</p>	<p>a: 授業, b: 提出物 各項目にA・B・Cの学習状況をチェックしていく。 ・語句の意味調べ: a 重要な語句の意味を答えさせる。なぜその意味を選ぶのか選択の仕方確認「思考力・判断力・表現力」「主体的に活用させる技術の習熟・熟達」にチェック b 語句の意味調べのプリント等提出させる。「知識及び技能」にチェック ・内容読み取り: a 内容を読み取るための発問。自分で考える。周囲と相談する。→発表「思考力・判断力・表現力」にチェック。内容によっては「学びに向かう力・人間性」にチェック。 B 授業ノート・プリント等提出させる。「知識及び技能」にチェック ・感想文・まとめの問題 a 感想文を書くまでの発表や話し合い、メモを取らせて提出させる。「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」にチェック b 感想文や課題(まとめの問題)の提出。「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性」にチェック a 感想文や課題の発表・発展・深化させるための発問, 説明 b 感想文や課題の発表を聞いて批評・感想を文にまとめて提出</p>	<p>今までやってきたことをもう一度見直し、観点別学習状況の評価の観点を整理し直す。 ・授業中の学習活動をどの観点でどういう場面でどういう基準でA・B・Cのチェックをしていくかを計画して授業をする。 ・提出物や課題も上記に同じ。 ・生徒から出た意見や感想を授業に還元させながら発展・深化させることも工夫していく。</p>
地歴・公民	<p>○単元ごとにテーマを設定し、論述させる。歴史上の社会の変遷、歴史的意義などをテーマとする。生徒の知識の概念化を促し、理解を一層深めることをねらいとする。副産物として授業で聞き、教科書で読んだことを自分でまとめるという言語活動の一助としている。 ○熱田高校周辺の歴史散策を通じて、自らの生活に関連する歴史へ興味を持ち探求する姿勢を身に付けさせる。</p>	<p>○記述式問題について 文字数が増えるほどに生徒の文章構成力のなさが見られる。また、単文で、語句を与える問題でも用語の意味が捉えられないケースが多い。授業中から文章表現をする機会を増やす、もしくは課題などの中で歴史的な叙述の仕方に親しませる必要があるかと思われる。 ○歴史散策について 熱田高校周辺の散策、夏休みには志段味古墳群の見学を企画し実施した。夏休みの古墳見学ではなかなか生徒が集まらず参加者が少なかった。補習や部活動の予定を優先するためと思われる。</p>	<p>○記述式問題について、段階的に文字数を増やすなどステップを踏むことで、徐々に慣れさせる工夫が必要だと思われる。短文から少しずつ量を増やすよう計画する。 ○歴史散策について、ひとりの教員だけが実施するのではなく、授業を利用した散策の場合は学年、科目で計画し、実施する。夏休みの企画は生徒への呼びかけを継続していく。 ○出前授業などを活用し、実物に触れる、体験する機会を作りたい。</p>
数学	<p>考査問題の創意工夫</p>	<p>・生徒の正答率は悪い。①問題が理解できない②理解してもそれ自体が難しい。③そもそも解く時間がない。などの理由が挙げられるが、何にしても1年後に向けて前向きな感情ではなく、苦手意識を植え付けているような気がしてならない。今まで以上に考えて問題作成をしないと成果が感じられないまま終わることもあり得る。</p>	<p>問題及び計算のレベルを落とし、なるべく教科書以上の力を問うことは避ける。</p>
理科	<p>発問の仕方→参考書を購入し、教科内で理解を深める。 生徒が話し合う機会を増やす→ホワイトボードを活用していきその使い方などを工夫する。</p>	<p>参考書の内容を基に生物基礎の授業において実施した。 →身近な題材をきっかけに授業内容へのスムーズな導入が行えた。 (その他)基本的な実験や身近な例から発問を見つけることで、生徒の関心を高めることが分かった。 (反省)授業内容への導入としての発問は考えられたが、生徒同士の話し合いを活発にするような発問を考えるまでに至らなかった。</p>	<p>・ICTを活用する。(各教室にプロジェクタなどが設置してあると嬉しい。) ・グループワークや実験における話し合いを活発にするような発問の工夫。</p>
保健体育	<p>保健1年 応急手当の単元でペットボトルを用いた胸骨圧迫の実習など身近なものを使用して多くの生徒に体験させる。 保健2年 妊婦体験や高齢者体験を通して自分とは違う人々の気持ちを理解した上で授業を行う。</p>	<p>今年度の高齢者体験では、軍手を用いて手の感覚の鈍さ、プチプチを用いて視力の制限を作り出すゴーグル、膝の可動域を制限する段ボール板、腰が曲がった状態を2ℓのペットボトルを袋に入れ首からつるし、高齢者の体の大変さを感じ取らせた。初めての試みであり、自作の体験教具には改良を重ねる必要があると感じた。生徒の感想からは、階段の登り降りなどを通じて、高齢者の大変さを痛感し、日常生活において高齢者に対し自分が何ができるかを考えるきっかけとなったようであり、ねらいは達成できたと感じている。</p>	<p>今年度の反省をいかし、保健の授業内での実習については改良を重ね、来年度も取り組んでいく。また、体育の実技については、ICT機器を活用し、各技術の練習段階やゲーム様相をその場で生徒にフィードバックし技術向上につなげていきたい。</p>
芸術(音楽)	<p>グループによる創作活動を積極的に取り入れ、旋律やリズムパターンを重ねながら音楽をつくり出す過程を通じて、音階や音型などの特徴を実感を伴って理解できるようにする。 ・リズム・アンサンブルの創作 ・校歌アレンジ</p>	<p>「リズムアンサンブルの創作」を1学期に実施。グループでの活動を通して、主体的な学び、対話的な学びを意識して授業を行った。最初、生徒は創り出すという作業は、難しいと感じていたようだが、やってみると充実感があり、楽しかったという感想が多かった。来年度は違うパターンの教材を準備し、内容の充実を図りたい。</p>	<p>歌詞、メロディーの創作(CMソング)</p>

家庭	消費者教育の教材として、消費者庁が制作した「社会への扉」を使用する(主体的に取り組めるよう工夫されている)。	・パワーポイントもダウンロードしたが授業では使いにくく、編集する必要があった。(夏の伝達講習で使いやすいように変更してよいと言われていた)。 ・家庭科だけでなく、他教科・学年と連携して行うべき内容だが、打ち合わせの余裕がなかった。	消費者の分野だけでなく、他教科と連携して内容を考えたい。 Ex)福祉を保健や現社と、栄養を化学、生物と、経済を数学と など
情報	○課題制作後に評価を受けての改善策の提案を行わせる。(今までは評価を受けるところで終わっていた) ○授業の反省・感想を電子ポートフォリオにまとめてさせる。	○改善案の提案について、具体的にここをこう直しなさいという指示がないとできない生徒が多かった。見直しのための時間をより多く取る必要がある。 ○生徒のタイピング能力に差がありすぎて、電子化に難しかった。プリントなど紙でまとめさせる方がよいかもかもしれない。	○課題制作後の振り返りにもっと時間を掛ける。失敗例とそれをどう改善すべきかを全体で考えてから、各時の改善案を提案させる。 ○気軽に、短い時間で録画できる。ポートフォリオシステムを検討する。
英語	ペア・グループ活動を中心に教科書の内容に関連したスピーキングによる自己表現活動を行う。スピーキングテストを学期ごとに行い、スピーキング能力の向上を図る。	1, 2年ともスピーキングテストを1学期1回実施した。英表で実施したが、理系が単位数が少なく授業が遅れる。スピーキングのルーブリックができたので、ライティングのルーブリックを考えていく予定だが、下位の生徒もある程度の点が取れる評価規準設定と普通の授業でスピーキング、ライティングの力をつける授業内容を豊富にする必要がある。	○英表でライティング、英コミュでスピーキング活動を普段の授業で行い、ライティング・スピーキングの力を付けさせたい。 ○ライティング・スピーキングのルーブリックの改善 ○多読(1年生)を行い、様々なジャンルの英文に触れさせる。
1年	○自己の在り方・生き方を考えながら類型選択をさせるために「社会で働くこと」や「生きること」につなげて考えさせる。 ○夏休みの進路研究の一つとして「キャリアブリッジ」(キャリア教育推進事業)を活用し、高校や大学の学びを社会で働くことにつなげていく。	○キャリア・ブリッジ(24名)、キャリア・インタビュー(32名)の合計56名が参加した。日程も限定されたなかでの参加は生徒も大変だったと思うが、「社会で働くこと」がやりがいを見だし、よりよい人生を送ることができることを肌で感じたようである。 ○事前指導(挨拶や身だしなみ等)は7/18(木)に行ったが、実施期間が1ヶ月空いてしまったので、出校日に念押しで指導しなければいけなかったと反省している(遅刻者や早退があったため) ○事前に訪問する企業をインターネットなどで調べさせて学習の振り返りができるような資料を作ると良かったと思った。	来年度はキャリア推進事業の援助は受けられないと思うが企業(近隣)にいくつか訪問できるように今年度お世話になったところへ次年度も少しでも大勢の生徒がいけるようにこちらも近隣企業へ働きかけることも必要かと思った。
2年	○生徒に「学びの記録」を作成させ、自身の学習や成長を振り返らせる。振り返りを通じて、自らの現状を明確化させ、苦手克服や長所伸長などを目指したさらなる学びへとつなげさせる。 ○作成させた「学びの記録」はクラス担任が保管していき、より深い生徒理解のための情報蓄積を図る。	○1学期の終わり頃に「1学期の振り返り」として実施。進路希望、学習、部活、行事等について自身の現状、取組について考えさせる機会となった。 ○2, 3学期にも時間をとって記録を作成させたい。 2, 3学期では、3年生受験に向けて気持ちを向けていけるような様式を考えたい。	○今年度と同様に生徒自身が学校生活を振り返り記録に遺す活動は継続する。その上で、学年ごと、各学期ごとにどのような内容を生徒へ問いかけ、意識付けをさせるのか、様式や項目立ての工夫を行う。